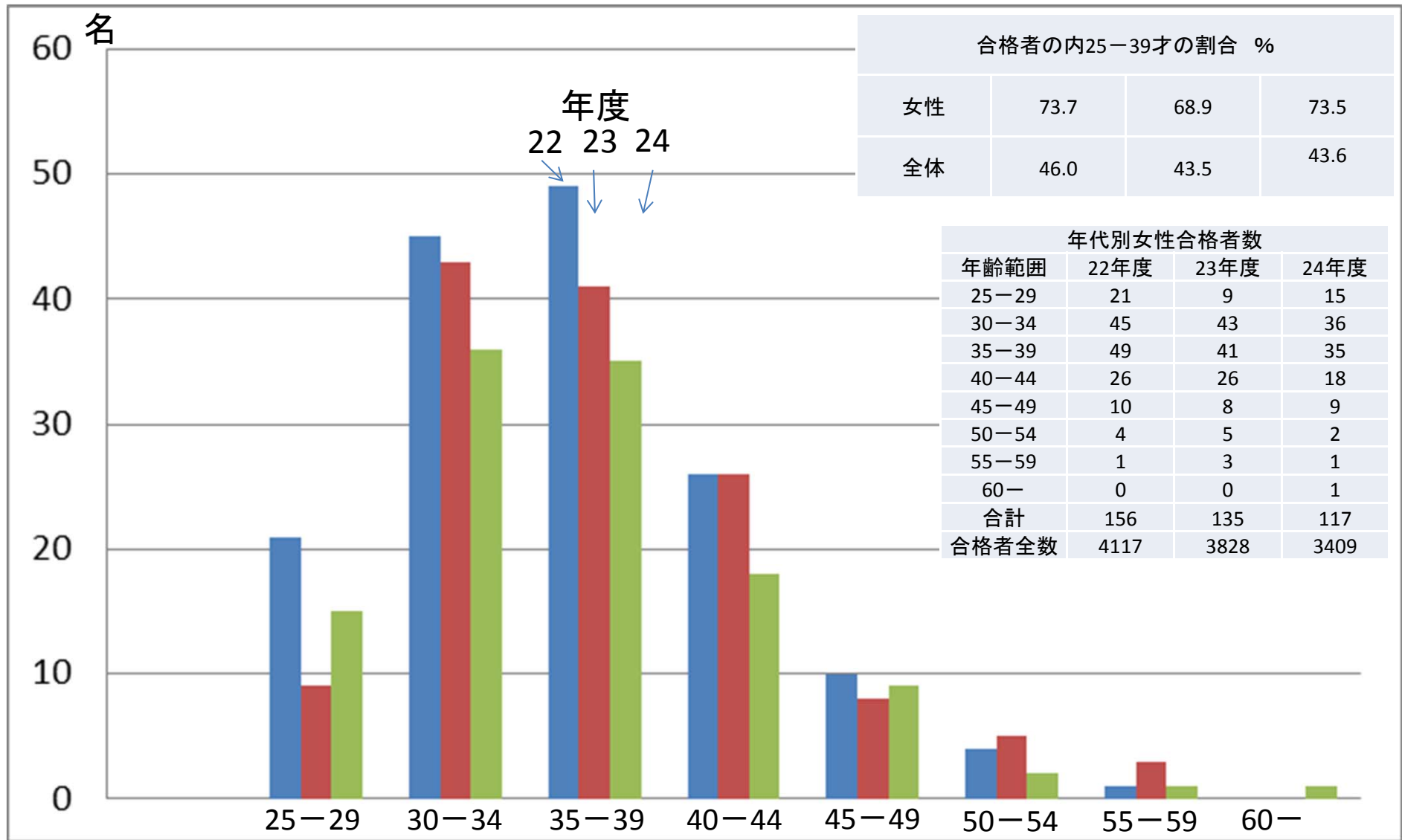


女性技術者の技術士キャリア形成スキーム(①から⑤は技術分野ではなく一般的な技術者像として男女共通)

資料5

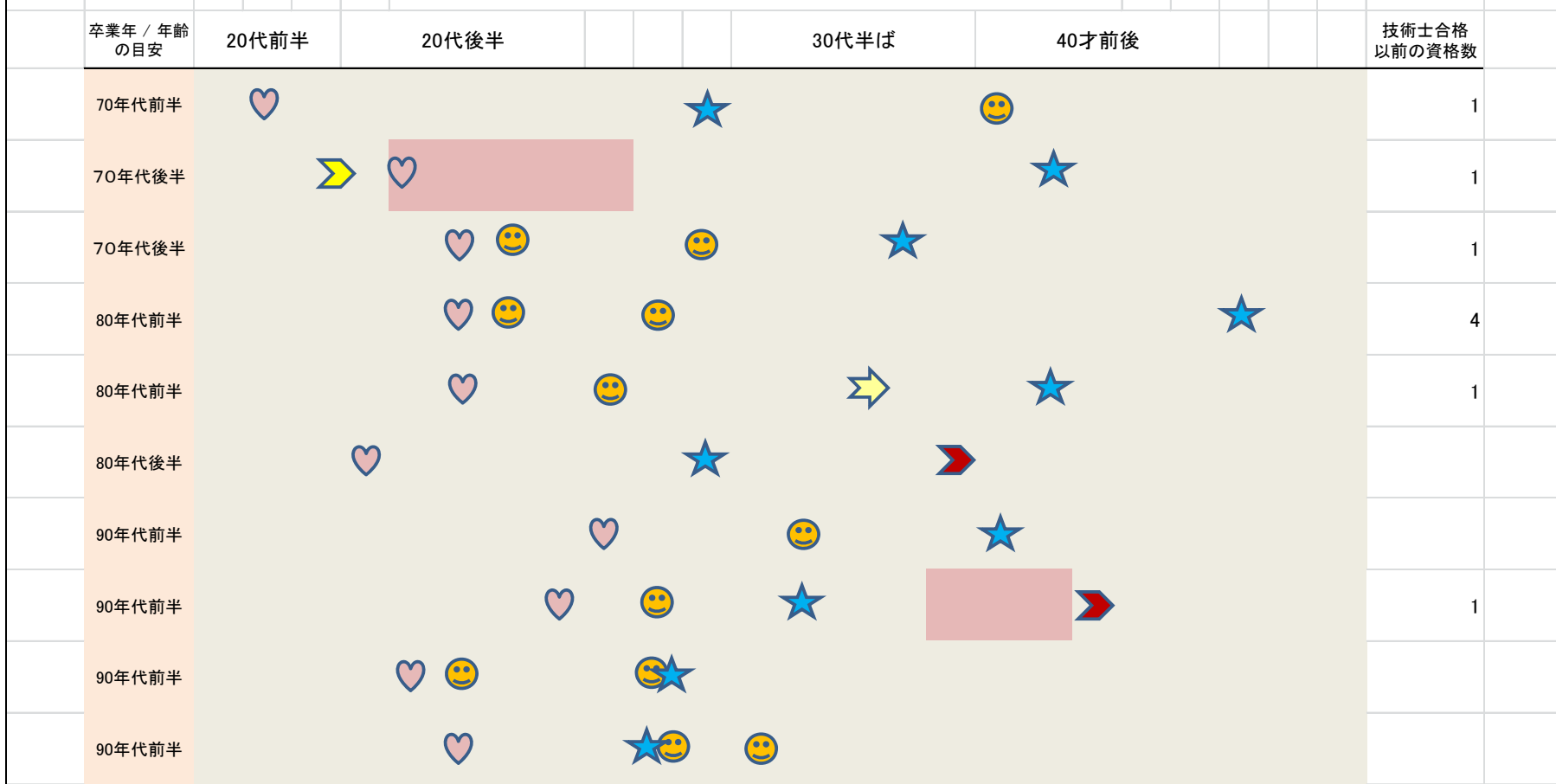
	ステージ1	ステージ2	ステージ3
①技術者像	技術士もしくは上司の指導で、与えられた課題をこなしていく。部分的であり比較的易しい仕事から与えられる。与えられた課題に関して一定の解決策を導く。自身で考え創意工夫して遂行するが、報・連・相を忘れない。複雑な問題や突発的な問題は一人で判断せず、上司の指導を受ける。	自分の専門の業務は、経験をもとに自立して業務を遂行することができる。また、関連する周辺分野の知識を深めるため情報収集を行い研さんしている。顧客に説明し、理解を得ることができる。複雑で高度な業務は上司もしくは総合技術士からの助言、指導により自立して遂行することができる。部下の指導も行い信頼される。担当業務は境界を広げパラレルに物事を考えていくことができる。場合によっては複数の業務をこなす。	複合的な観点での業務遂行ができる。経営的観点では、顧客、社員、費用、業界等の周辺への影響を考慮した判断ができる。技術的観点では、製品やサービスの社会に対する影響、安全性、国際性、リスクマネジメントの観点を取り入れた技術業務の考え方ができ、実行できる。技術士を含む部下を指導し、成果を上げさせることができる。
②年齢の目安	20代は修行の時期。この時期に技術士にふさわしい経歴とはなにか、を理解するためのアドバイザー(メンター)が必要。	30才少し超。これ以降は最も仕事ができる時期。	45歳前後。実力は周知されている時期。ここまでで認知されていなければ技術士になるのはむずかしい。
③職位等の具体例	○民間技術者 後半で主任、係長	○民間技術者 係長から課長クラスへ	○民間技術者 課長から部長クラスへ
④職位等における業務の性格	上司、先輩の指示により業務を遂行する。具体的な技術や手法は先例や、マニュアルや手順書などによることが多いが、自分で調べ創意工夫することもある。	課長などの組織のリーダーとして、部下や後輩への確かな業務上の指示ができることは当然事項。相手の言語(思考方法)を理解して指示をさせる役割がある。	マネジメントを行う。起業技術士であれば代表者
⑤資格	技術士補	技術士	総合技術士(仮称)
技術士に向けた女性技術者の課題	技術士の存在を知ることから始まる。いずれ受験することを念頭に制度や試験内容を知っておく。男性と同じ情報が与えられるとは限らないので、自分から求めていく。上司や先輩の技術士は近づきにくい感があるが、責任ある立場にいて信頼できる人を探し、メンターなどを依頼し良い関係を築いておく。	女性は顧客との打ち合わせの機会に恵まれないこともあり、説明をする機会も少ない。また、リーダーとしての経験が積めないこともある。社外での研さんも重要。優れた情報収集能力を養う。さらには先輩の女性技術士を知ることが重要。個別事情に応じたアドバイスを受けることができる社内外のアドバイザーの存在は貴重である。	資質の獲得の重要性は男女関係ないが、女性技術者は社内や技術系に限定せず女性管理職のネットワークからも情報収集が必要。技術士であることを強みとし、社内外で信頼を得る時期。
女性技術者と年齢	20代は修行の時期。また、女性の仕事は本人が望まなくてもアシスタント的になりがち。この時期に技術士にふさわしい経歴とはなにか等に対するアドバイザー(メンター)が必要。	30才前後 アシスタントの仕事から脱却する時期だが、会社が認めてくれなくても、技術士に挑戦するのは自由。女性は技術士挑戦の年齢幅を大きく構える。別途業務に必要な資格への挑戦行動が周辺の環境も変えていくと認識する。	45歳前後。実力は周知されている時期。ここまでで認知されていなければ技術士にはむずかしい。実力のある女性でも出産・育児による昇進等に年齢の幅ができる。
女性技術者とライフイベント	主に20代ではパートナーとの出会いが今後のキャリアに影響する。キャリア一筋の女性であっても、価値観は男性よりも趣味や家族(両親)との関係におくという現代の傾向がある。また、多くの女性は子供を持ちたいと思っている。結婚や出産を壁と考えずに、20代後半では、周囲から何を期待されているかを考え、強みを磨き成果を上げる努力をしていくことを考え、その過程で技術士挑戦を考える。	20代と同様にパートナーとの出会いが今後のキャリアに影響するが、経歴が積み重なっている分だけ選択肢が広がることもある。20代後半から30代では出産、育児との両立に直面する。経歴が形成され技術士受験時期と重なる。女性の価値観は多様なので必ずしも一直線に進むことにこだわっていないが、本音は男女同等と考えて、地位を得ることも望んでいる。また仕事を続けたいが出産を機にやむを得ず退職し、充電期間を持っても、技術士を取得していれば転職、再就職にも有利である。	ある程度、子供が大きくなり、急上昇で復帰できる時期でもある。管理職への登用も積極的に受けることができる状態になるが、出産、育児期に男性と同じように働くことができなかったことが昇進、昇給に影響している。年齢や経験年数には、女性が育児を行っていた期間を考慮した考え方を広めていく必要がある。一方で介護の問題が出て新たな負荷がかかる。介護の問題は子育てと異なり先がみえないので、大きな進路変更もありうる。
女性の技術職の特徴	大学を出ても、女性はアシスタントや補助職におかれがちなので、不利である。技術士はテクニシャンではない。テクニシャンを続けていて、経歴を重ねても技術士の試験は受からない。自分自身で気づき、技術者の仕事についての深い考えを持たなければ技術士にはむずかしい。		
女性技術者の収入	収入に対して、公式な意識調査結果ではないが、多くの女性技術者は対等であるべき、と考えている。常に最前線を目指すかどうかは別として、技術士であれば、標準的な昇格、昇給は約束され、技術士取得はほとんど場合、待遇の改善につながっている。働く女性の年収は300万円未満が7割といわれているが、働く立場が補助員でなければ技術者や科学者はそのようなことにはならない。一時的に仕事を離れた場合は収入は下がるが、技術士資格を活かすことにより転職に有利であり、一般の技術者よりは回復が望める。		
女性にとっての受験しやすさ	第一次試験は、大学等出た後すぐに挑戦、合格しておくこと。若いときに頑張る。第二次試験に向けての経歴形成が重要な時期であるため、技術者であれば女性であっても技術士をめざすという企業風土の形成が求められる。本人とあわせて管理職、使用者等に対しても技術士の情報提供と働きかけが必要。就職後の初職の時代から、所属・業種を超えた女性を対象とした技術士に向けての啓発や支援の制度などを検討したらどうか。	この年齢層が男女ともに技術士に最も近い一方で、女性技術者のライフイベントが重なる。妊娠中は仕事を離れ勉強ができるとの声もある。その後は育児休暇を取得しても出産後は時間の余裕はない。仕事、家事・育児と技術士への継続的な挑戦が可能ないように、試験では、筆記試験合格は2年間(翌年、翌々年)留保できるなどの工夫がある。科目ごとに留保できる制度も考えられる。極論ではあるが合格者(技術士)の女性枠のようなものも検討したらどうか。	このクラスの年齢では試験に特別な配慮は不要と考えられる。



女性技術士第二次試験合格者の年代(平成22年度-24年度)

年代

初めの技術士合格までの軌跡(卒業後のライフイベントと技術士)



注) 技術士合格以前の資格は業界で求められる資格でキャリアの証明

♡ 結婚    😊 出産    ★ 技術士    ➡ フリーランス    ➡ フリーランス(技術士事務所)    ➡ 転職  
就業    専業主婦

← 生物学的な出産適齢期(35歳くらいまで) →  
← 多くの女性が望ましいと考えている出産期 →